IMF サーベイ

新専務理事

IMF 新専務理事を待ち受ける山積する課題

IMF サーベイ・オンライン
2011 年 6 月 29 日

理事会（構成：理事 24 名）との面談を終え IMF 本部前に立つ、クリスティーヌ・ラガルド氏（写真: IMF）

- クリスティーヌ・ラガルド氏、7 月 5 日に専務理事に就任
- 世界の回復の支援・ユーロ圏の危機への対応ー迫られる難しい政策選択
- IMF の正当性・実効性の向上を重視

6 月 28 日に国際通貨基金（IMF）の新専務理事にクリスティーヌ・ラガルド氏が選出されたことを受け、焦点は、1944 年の IMF の設立以来初の女性トップを待つ優先課題に移っている。

24 名の理事が構成する IMF 理事会の指名を受諾するにあたり、ラガルド氏は「IMF は、世界経済・金融危機の間、多くの面で積極的に改革を行ない、187 加盟国に対し適確な支援を行ってきた。我々IMF はこれまでと同様に集中し変わらぬ精神のもと、全加盟国のために引き続き尽力することを、専務理事の職に就くにあたり最大の目標として掲げたい」との声明を発表した。

「選出過程の際に理事会に申し上げたとおり、IMF の使命として、強固かつ持続可能な成長、安定したマクロ経済、万人のより良い未来のために、今後も加盟国にとり有意義な存在であり続けると共に、柔軟な対応と正当性を維持・継続することが求められている」

ドミニク・ストロスカーン氏の辞任後、5 月 20 日からひと月に及んだ選出過程を経て、ラガルド氏は、7 月 5 日に就任、5 年の任期を務めることになった。

同じく専務理事候補であった、メキシコ中央銀行のアグスティン・カルステンス総裁は、ラガルド氏選出の決定を受け、同氏の成功を祈ると共に同氏に対して全面的な支援を約束した。

不均一な世界経済回復

ワシントン DC の IMF 本部では、厳しい課題がラガルド氏の就任を待ち受けている。欧州の情勢は引き続き不透明であり、中東の混乱は続いている。加えて、急成長を

見せる一部の新興市場国では景気過熱の兆候が見られ、商品価格の高騰が低所得国にとり特に大きな問題となっているなど、世界経済は多くの問題を抱えている。

ラガルド氏は「IMF は、世界経済の不均一な回復、世界的不均衡の再表面化、問題を誘発しかねない資本フロー、高失業率、インフレの上昇、さらには各国での難しい問題など、様々な課題に直面している」との認識を示した。

見通しを不透明にしている要因の一つが、欧州の債務危機である。なかでもギリシャは、自国経済を強固な基盤に乗せるべく、より断固とした一連の措置に対する国内の政治的支持を固めようとしているが、同国を取り巻く状況は最も深刻である。

55 歳のラガルド氏は、世界金融危機の間にフランスの財務相を務めるなど、ユーロ圏が直面している様々な問題に精通している。

フランスのテレビ局 TF1 とのインタビューの中で同氏は、ギリシャの反対派に政府への支持を訴えた。「これには、ギリシャという国の運命と安全保障がかかっている。このような時、我々は大小の政治的違いを乗り越え、国のために尽力することが必要なのだ」

更なる改革を目指して

理事会による選出決定を前に、元シンクロのオリンピック選手であり成人した 2 人の息子の母親でもあるラガルド氏は、中国、インド、ロシア及びブラジルを訪問した。これは、急成長を遂げる新興市場国と密接に協議を進めるという、同氏のコミットメントの一環である。

「IMF は他の誰でもなく 187 加盟国のみに属するものであり、IMF の運営はある特定の国や地域に属するものではない。一部の国が過小評価されている状態にあるならば、世界経済の力の均衡を代表することは事実上不可能だ」

2010 年 11 月に IMF は、新興市場及び途上国の重要性が一段と増していることを背景に、IMF の意思決定枠組みの改革を承認した。ラガルド氏は、これらの改革の早急の実現を求めるとともに、国の代表権の問題について、更なる作業が必要だと述べた。

IMF の政策諮問機関のターマン・シャンムガラトナム議長は、ラガルド氏の更なる改革の呼びかけに対し、支持を表明した。「ラガルド氏との会談の際、世界経済及び金融システムの均衡の変化を反映することができるよう、2010 年の改革を完全に実行し、今年 9 月の年次総会の前に開始が予定されているクォータ計算式の見直しを推し進めるなど、IMF のガバナンス改革の継続が肝要という点で我々は合意することができた」

より実効的な IMF に向けて

波及効果とは、世界経済における貿易及び金融の連関性が著しく高まったことによる、一国の政策の他国に及ぼし得る影響を指す。IMF は、国際レベルでの政策協調の強化を図る取り組みの一部として「波及効果」に関する作業を強化しており、ラガルド氏は、このような流れの中で就任することになる。

理事会への声明の中で同氏は、これまで以上に厳しく効果的でかつ一貫したサーベイランスが、危機防止能力の向上と加盟国のニーズを一段と反映した政策助言の実現に不可欠だと述べた。「為替相場の安定性の確保という第一の責務を越えて、IMF は、金融安定理事会をはじめとする関係機関との協力の下、金融部門に関する専門知識のサーベイランスへの組み込みの一層の強化に努めなければならない」

多様性の向上を約束

TF1 とのインタビューの中でラガルド氏は、女性初の IMF 専務理事となることについて、光栄だと述べた。立候補の際、同氏は、IMF における機会均等と、性別、或いは学問や地理的な面など、あらゆる側面での多様性の向上の必要性を強調した。

同氏は IMF 理事会に対し「多様性により正当性が向上するが、同時に実効性も強化されることになる。この分野での進展を期待していただきたい」と述べた。

2 人の有力候補

ラガルド氏の選出は理事会の合意のもと決定した。同氏は声明の中で、幅広い加盟国からの支持に感謝すると述べるとともに「私の同志であり友人でもあるアグスティン・カルステンス氏」に心から敬意を表すと述べた。

IMF 外部からは、専務理事の選出プロセスを、一段とオープンかつ透明なものにする必要があるとの指摘が聞かれる。

ターマンが議長は声明の中で「この度の専務理事選出プロセスには、著しく卓越した 2 名が名乗り出た。アグスティン・カルステンス及びラガルド両氏は、有力な候補であった。私は、両氏がそれぞれ、同プロセスにおいて多くの加盟国と意見を交わし、常に相互尊重の精神を示し、世界の安定性の促進に向けた IMF の能力を強化する必要性を明確にしたことに対し、感謝の意を表する」と述べた。